

### ハイライト

- 世話役養成塾第1回が開催されました！
- 移住の県内外の動向と、人口減少についての講義
- 県が考える「世話役」の3つのタイプについて
- 「世話役養成塾」第2回目の内容

### 目次

- ゲスト講師による移住の動向と人口減少、定住の為のキーパーソンとなる「世話役」の重要性について …1
- 沖縄県が考える「地域の世話役」の具体的な「像(タイプ)」について …2
- 昨年度の既卒者のフォローアップ講座も実施 …2
- 県からのお知らせ  
世話役養成塾受講者を現在も募集中！ …2

## 「地域の世話役養成塾」特集号



6月25日(月)、那覇市の八汐荘にて、今年度第1回地域の世話役養成塾を開講しました。この世話役養成塾は、第4回まで開講予定であり、受講者が今後市町村に於いて、移住希望者、及び既に移住した人のサポートや、地域の人々との間を円滑に繋ぐ役割を担う上で、昨今の国内移住の動向や他自治体の例、そして自分の地域で実践できる世話役のノウハウを講座とワークショップという形で学びます。

### ゲスト講師による移住の動向と人口減少、定住の為のキーパーソンとなる「世話役」の重要性について

第1回養成塾の第1部では、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター副事務局長の嵩 和雄さんを迎え、「地方移住をめぐる現状と課題」について講義して頂きました。講義では、まず移住促進に係る全国的な動きと移住に大切なことについてお話頂きました。始めに、地方の人口減少に対する主な対策として移住施策があるが、沖縄は独特の課題があること、また、移住希望者の多くを占めるようになってきた若者・働き盛り世代の求める「育児、仕事」に応える必要が出てきていることなどが話されました。次に、日本国内での人口減少は加速しており、沖縄県でも市町村によっては人口減少が始まっていること、そこで、県内市町村における人口推移(人口ビジョン)のグラフを見ながら、現状把握と危機感の共有をしました。また、講義の後半では、移住者の受入体制づくりとして、一人の住民として何ができるのか、どんな移住者に来てほしいのかを受入側がよく話し合うことが大事であること、また移住後、定住につながる事が重要で、そのためには気軽に相談できる「世話役」という存在が重要な役割になっている、との話をして頂きました。



### 今後の予定

<b>【移住フェア】</b> ● 7月28日(土) おいでや！いなか暮らしフェア(大阪) ● 9月9日(日) ふるさと回帰フェア(東京)	<b>【沖縄移住相談会(県主催)】</b> ● 9月8日(土) ● 11月10日(土) (予定) (東京) ● 7月29日(日) (大阪)	<b>【地域の世話役養成塾】</b> ● 第2回 8月9日(木) 北部・南部合同で実施 ● 第3回 10月実施予定
----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

## 沖縄県が考える「地域の世話役」の具体的な”像(タイプ)”について

第2部では、「世話役」の役割から考えられる3つの像”(タイプ)”分けについて、より具体的な講義を行いました。今年度、世話役養成塾は3年目を迎え、県では、これまでに養成塾受講者の方や、独自に地域の中で日常的に移住者と地域をつなぐ役割をされている方々にお会いしたり、またその活動内容について伺う機会が多数ありました。その多くの出会いや、活動の様子を伺ううちに、「世話役」という役割が、大きく3つのタイプに分けられるのではないかと、今後世話役となる方がそのタイプに自分を重ねてみることで、世話役として移住者と地域の為に、「考え」「行動」する具体的なアクションにつながっていくのではないかと考えました。そこで、本講義では県が考える「世話役の3タイプ」を説明し、参加者の方々には、自分がどのタイプにあてはまるのか、また世話役のタイプ別にあてはまる人が、自分以外にも地域の中にいるかを、ワークショップ形式で書き出してもらい、その後発表してもらいました。

### 県が考える「世話役」の3タイプ

	現 状	課 題	学 ぶ 事 項
<b>①地域に責任を負うタイプ</b> <small>公民館長/自治会長 及び職員</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、移住定住の理解が様々</li> <li>手段への意識が強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民への説明ができない</li> <li>何をやればいいのか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住定住の重要性を体系的に理解する</li> <li>持続可能な地域づくりという視点を獲得</li> <li>ビジョンのたたき台を作る</li> </ul>
<b>②積極的な地域住民タイプ</b> <small>意識の高い移住者 地元住民/出身者</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モチベーションが高く活動経験もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動する原資がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポーターとして自分が出来る範囲を理解する</li> <li>理解した上で次の一歩を決める</li> </ul>
<b>③公的・中間支援側タイプ</b> <small>地域おこし協力隊 地域の支援団体</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モチベーションは高いが役割としては明確ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこから手をつければいいのか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイプ①・②と行政との繋ぎ役</li> <li>地域を俯瞰した視点</li> <li>ミッションを決める</li> </ul>

それぞれの立場を理解し役割を整理。特長、強みを生かした連携を図り、自主的な移住定住促進へ

次回第2回世話役養成塾では、この世話役の3タイプのうちのタイプ1と2の方についてじっくりと掘り下げた内容にする予定です。各タイプの方は、地域の中で「移住」にまつわる様々なシチュエーションで、どのような役割があるのか、それによってどのような効果が、移住者と受入側双方にあるのかを知って頂きます。また、タイプ1、2の方がそのような自発的な行動に出る、そもそもの「動機」とは何かについても、参加者を交え考える場としたいと思っています。そこで、具体的な事例をご紹介するにあたり、3名のゲストの方をお呼びします。徳島大学総合科学部 田口太郎准教授は、ご自身も徳島県佐那河内村に移住者として地域へ入り、地域の方々や村役場と連携して移住取組をしてきた経験をお持ちです。移住に関する実体験と、専門領域である「住民主体のまちづくり」、および近年特に執筆・講義をされている「移住者との地域づくり(関係人口論等)」の視点から、世話役についてお話やご意見を頂く予定です。もう2名のゲストは、既に沖縄県内の「世話役」として活動されている方として、うるま市と那城宮城区、自治会長の名護徹さんと、隣接地区である桃原区にお住まいの本間優子さんです。お二人は、先に分けたタイプ1と2にあてはまると思われる方で、より身近な実体験、そして自身の移住や地域への思いについて直接聞ける場になると思います。



### 昨年度の既卒者のフォローアップ講座も実施

また昨年度養成塾を受講した「既卒者」の方へのフォローアップ講座も6月25日(月)に那覇にて、26日(火)に名護にて開講しました。今回の第1回目では、昨年度の養成塾受講後に、ご自身が地域や移住者に対してどのような働きかけをする機会があったかについて、お一人ずつ伺いました。その際に課題だと感じたこと、またこれから取り組みたいと思っていることについてお話頂きました。第2回目以降の養成塾では、その解決に向けた方法を探れるような内容を盛り込む予定です。

**～沖縄県からのお知らせ～** 地域の世話役養成塾は、今後第3回までは、新規対象、既卒者対象の講義をそれぞれ分けて実施し、第4回では合同で開催する予定です。県としましては、養成塾を通して、より多くの方に、地域において自発的に、また自分の出来る範囲において移住受入の環境づくり、意識づくりの一助となって頂けるような「世話役」としての知識や考え方を得て頂ければと思っています。第2回目以降からの新規受講者の方も大歓迎です。ご興味のある方、またこの方は適任ではないかと思われる候補者がありましたら、**県地域・離島課までお問合せください。**

問い合わせ先：沖縄県企画部地域・離島課 小橋川